

明石工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	防災リテラシー	
科目基礎情報							
科目番号	5127		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年		1		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	太田敏一、松野泉：防災リテラシー第2版、森北出版、2021						
担当教員	本塚 智貴,ゲゼール イエガネ						
到達目標							
(1) わが国で発生する自然災害について理解し、減災・防災に関する知識・意識・技能を習得する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		わが国で発生する自然災害について詳細に説明でき、減災・防災に関する知識を習得しているだけでなく、行動できる。		わが国で発生する自然災害について説明でき、減災・防災に関する知識を習得している。		わが国で発生する自然災害について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	社会生活における様々な場面で、あるいは所属する組織において、減災・防災のリーダーとなるべく、災害を理解し減災・防災に関する知識・意識・技能を習得するとともに、希望者は防災士資格の取得を目指す。 連絡員：本塚智貴						
授業の進め方・方法	各テーマの担当者によるオムニバス形式の講義形式で行うが、クロスロードゲームような協同学習も含む。 イエガネ担当：第1, 3, 4, 6, 15週, 本塚担当：第1, 2, 9～11, 13週, 外部講師：第5, 7, 12, 14週						
注意点	災害が多発する先進国である日本で生きていくために、最低限知っておくべきことを学びます。現実の社会での出来事にも関心を持って学習し、将来、防災リーダーとして活躍してもらうことを期待しています。 評価の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス、災害とは【本塚・イエガネ】		わが国における近年の自然災害について理解し、防災・減災の概念について説明できる。		
		2週	クロスロードゲーム【本塚】		災害時にとっさの判断を適切にすることができる。		
		3週	地震災害【イエガネ】		わが国における地震について発生原因など基本的な事項ならびに住宅の耐震化について説明することができる。		
		4週	津波災害【イエガネ】		地震に伴う津波の発生原因など基本的な事項について説明できる。		
		5週	気象災害（台風・豪雨・異常気象）【外部講師】		台風や豪雨による洪水災害や異常気象の発生要因やその防止・軽減対策について説明できる。		
		6週	土砂災害（地震、豪雨災害）【鍋島】		地震や豪雨に伴う土砂災害の発生要因やその対策について説明できる。		
		7週	火災・救急・救助活動【外部講師】		火災などの災害発生時における救急・救助活動の現状について説明できる。		
		8週	中間試験		第1週から第8週までの講義内容を確認する。		
	4thQ	9週	ライフラインの被害と復旧【本塚】		大震災でのライフラインの被害と復旧、災害に強いライフラインの構築について説明できる。		
		10週	復興計画および復興まちづくり【本塚】		地震などの災害発生後の復興計画や復興まちづくりについて説明できる。		
		11週	災害時における情報に関する話題【本塚】		災害発生後の情報の流れや重要性に関する基本的な内容を説明できる。		
		12週	避難所運営と仮設住宅の暮らし【外部講師】		災害時の避難所の実情や運営方法について説明できる。		
		13週	災害時の要配慮者への対応【本塚】		災害時において特に配慮を要する人々への対応事例とその課題について説明できる。		
		14週	自主防災組織・地域防災計画・ハザードマップ【外部講師】		明石市の地域防災計画ならびに自主防災組織の活動について説明できる。		
		15週	災害リスクマネジメントと事業継続計画【イエガネ】		災害時に対するリスクの評価ならびに対策について学習し、事業継続計画について説明できる。		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	後1,後14	
			環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	後1,後14		
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	後15	
			合意形成のために会話を成立させることができる。	1	後15		

				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	後15
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	後2,後14
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	1	後2,後14
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	後2,後14
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	後2,後14
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	後2,後14
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	後2,後14,後15
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	後2
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	後2
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	後2
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	後2
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	後2,後15
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	後2,後15
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	後2,後15

評価割合			
	試験	その他	合計
総合評価割合	100	0	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	80	0	80
分野横断的能力	20	0	20